

令和2年度第1回幡多地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：令和2年9月18日（金） 14：00～16：30

場所：黒潮町ふるさと総合センター1階ホール

出席：委員27名中、24名が出席（代理出席2名含む）

議事：（1）産業振興計画関連 年間スケジュールについて

（2）地域アクションプランについて

- 1）第3期幡多地域アクションプランの取り組みの総括について
- 2）第4期幡多地域アクションプランの進捗状況等について
- 3）修正・追加等の案件について

（3）産業成長戦略について

- 1）観光振興の取り組みについて
- 2）移住促進の取り組みについて

議事（1）（2）（3）について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）
議事については、すべて了承された。

※意見交換概要

（1）産業振興計画関連 年間スケジュールについて

（2）地域アクションプランについて

（中平座長）

それでは、地域住民代表の中脇委員から意見を伺いたい。

（No.18 西土佐産栗の地産外商の推進）

（中脇委員）

栗の生産量が裏年ということもあって減少したとあった。栗を活用したばっば栗やびっ栗まんじゅうなどの構想もあるようなので、次第に生産が伸びてくると思うが、事業主体が何箇所にもなっていることを懸念している。事業主体の統一や方向性の見直しの指導をやっていった方が良いのではないかな。

（中平座長）

次に、一般社団法人黒潮町観光ネットワーク代表理事の森田委員に意見を伺いたい。

（No.34 幡多広域におけるスポーツツーリズムを核とした交流人口の拡大と地域の活性化）

（森田委員）

新型コロナの影響によりスポーツ合宿がない。7月にも前日になってキャンセルということがあった。冬休みや春休みに向けてスポーツ合宿を取り入れている黒潮町、四万十市、宿毛市にも誘客できるよう頑張っていく。高知県観光コンベンション協会の助成金や幡多広域観光協議会からのアドバイスや支援もあるが、地域本部としても何か支援していただきたい。

(中平座長)

続いて、大月町観光協会会長の安田委員に意見を伺いたい。

(No. 26 道の駅「ふれあいパーク・大月」を基盤とした産業振興と賑わいの創出)

(安田委員)

資料では触れていないが夏の売上は今までにないほどアップしている。新型コロナの影響で宿泊客は少なかったがキャンプ場等も例年にない問合せ、入込があった。ふれあいパークに関しても、幡多広域で出していただいたチケット（はた旅クーポン）の回収率が大変良く、8月の売上は対前年比150%近くになった。これは、新足摺海洋館 SATOUMI（以下、SATOUMI）のオープンの恩恵も大きかったと思っている。

観光協会に関しては、情報発信について、これから観光客のニーズが多様化するなかで、今後に向けてホームページ等をリニューアルするために、産業振興アドバイザーを入れさせていただいた。

(中平座長)

続いて、黒潮町商工会会長の小松(孝)委員に意見を伺いたい。

(No. 34 幡多広域におけるスポーツツーリズムを核とした交流人口の拡大と地域の活性化)

(小松(孝)委員)

スポーツツーリズムについては、新型コロナの影響を大きく受けたが、逆に新型コロナを利用して、新しい顧客を開拓できないか考えている。そのようなところでアドバイスや支援があればお願いしたい。

(中平座長)

続いて、三原村商工会会長の沢良木委員に意見を伺いたい。

(沢良木委員)

第4期産業振興計画を進めていくうえで5つの強化ポイントを掲げており、そのなかで担い手確保策と移住促進策の連携が掲げられている。地域で商売するなかで人手不足や人材不足の声は聞こえてくるし、自らも感じている。事業を継続していくためには人を確保することが非常に重要なことから、これまでの担い手確保の取り組みの成果、どういう分野でどのような成果が上がっているか教えて欲しい。

(中平座長)

続いて、大月町商工会会長の長山委員に意見を伺いたい。

(No. 5 大月町内の持続可能な山林資源を活用した製炭業の推進)

(長山委員)

生産力向上に係る取り組み状況のなかで、備長炭生産組合の定例総会の開催とあるが、県は

この問題についてどこまで入り込んでいるか。個々の生産者がどこまで生産組合にメリットを感じているのかが見えない。県はどこまで把握しているのか。

(中平座長)

続いて、中村商工会議所会頭の福田委員に意見を伺いたい。

(福田委員)

42 個の地域アクションプランの中に、新型コロナの影響もないのに業績が伸びていないところが多々あると思うが、どこまで面倒をみないといけないのか。

(中平座長)

続いて、土佐清水商工会議所会頭の程岡委員に意見を伺いたい。

(No. 36 竜串地域の観光再生構想の推進)

(程岡委員)

新型コロナのおかげで賑やかになったのは SATOUMI や柏島くらい。しかし、新型コロナ禍のこの状況では全てがやりにくい。

(No. 14 土佐清水メジカ関連産業再生構想の推進)

(程岡委員)

スープブロスが平成 30 年の 4 月に商品が出来ているのに、今、量産するための製造ラインを整備しようとしている。商品開発から 2 年が経っており、こんなことでは商売にならない。商機というのは、素早くしないと 2 番手 3 番手に甘んじなければならなくなる。補助金を出してもらえるのであれば、速やかにやるのが良いと思う。

(中平座長)

続いて、宿毛商工会議所会頭の立田委員に意見を伺いたい。

(立田委員)

年間スケジュール中、6 月の産振本部会議やフォローアップ委員会でも「新型コロナウイルス感染症による経済影響対策の取り組みと今後の方向性」とある。今年度の指標について現在の見通しを反映した指標の見直しが必要ではないか。観光については指標がはっきりしているので、GoTo キャンペーンなど具体的な対策が取られるが、食品に関してはウェブを通じてダイレクトに売っていくなど、販売の仕方が新型コロナの影響で大きく変わってきている。フォローアップ委員会や産振本部会議でどのような指標を見せていくのかも踏まえた、指標の見直しは必要ではないか。

(中平座長)

続いて、観光で大変な影響を受けているかと思うが、一般社団法人土佐清水市観光協会会長

の西宮委員の意見を伺いたい。

(旧 No. 40 竜串地域再生プロジェクト)

(西宮委員)

竜串地域再生プロジェクトはB評価となっている。課題としては、新施設を訪れる観光客が、体験プログラム等を楽しみ、地域の周遊や宿泊に繋がるよう、滞在時間を延ばす仕組みを作り、地域の収益アップを図るとなっている。1年前から四万十市観光協会と土佐清水市観光協会が四万十・足摺周遊プランを検討しており、この度、四万十足摺 SATOUMI 周遊プランを作って推進を図っているので解決できるのではないかと。SATOUMI は好調だが、土佐清水市全体で見ると新型コロナウイルスで打撃を受けた。そんな中で、7月から発売した「ジョン万満喫クーポン」は3,000枚が1週間で売れた。人は(土佐清水市に)来たいと思っている。その後も厳しい状況を受けて1,000万円程度の補正予算を組んでいただいた。感染防止対策と経済活動の両立を目指していきたい。

(中平座長)

続いて、一般社団法人宿毛市観光協会会長成田委員の代理として、業務執行役員である柏木委員代理に意見を伺いたい。

(No. 33 幡多広域における滞在型・体験型観光の推進)

(柏木委員(代理))

8月から幡多広域観光協議会で「はた旅クーポン」を実施している。このクーポンが始まってから目に見えてお客様が増えてきた。宿毛市観光協会の窓口ではクーポンの換金業務も行っているが、換金に来る業者も多い。クーポンが呼び水となって幡多全体の周遊も伸びている。今後、こういった周遊の取り組みを伸ばしていければ良い。

(中平座長)

続いて、一般社団法人幡多広域観光協議会の小松(昭)委員に意見を伺いたい。

(小松(昭)委員)

幡多広域観光協議会は、職員が非常に少なく6名で業務を行っている。6市町村にまたがり様々な観光事業を実施しているが非常に人手が足りない状況のため、何とか人を配置することができないか。

また、四万十市の観光見える化事業や川バスといった各市町村でやっている事業を把握しているのか。地域アクションプランとも連動するので、把握したうえで進めて欲しい。しまんと・あしずり号という4市町村にまたがる仕組みがあるが、今のアクションプランにその記載がないのは既に動いているからか。

観光地域づくりの事業でSDGsに関する勉強会に、幡多広域観光協議会や四万十市観光協会の職員が参加している。体験事業者へ支援のためと想っていたが、今SDGsの商品作りの方に偏りすぎているのではないかとと思うがどうか。

(中平座長)

続いて、四万十川中央漁業協同組合代表理事組合長の堀岡委員に意見を伺いたい。

(No. 20 売り出せ西土佐プロジェクト推進 (拠点ビジネス))

(堀岡委員)

地域アクションプランに四万十川に関しての取り組みが少ないように思う。道の駅よって西土佐の林駅長と生協や西部漁協等との話で、四万十川の鮎のブランド化に向けた準備を進めているので、支援をお願いしたい。

また、東京のアンテナショップで四万十川の鮎やウナギ、ツガニ等を取り扱ってもらうことはできないか。

(中平座長)

続いて、高知県漁業協同組合副組合長理事の問可委員に意見を伺いたい。

(No. 14 土佐清水メジカ関連産業再生構想の推進)

(問可委員)

冷凍保管施設や残渣処理施設が整備されても原魚がなければ生産にはつながらない。現在、黒潮が離岸して青魚が(餌を)食わず、来年度のメジカの原魚の水揚げを非常に心配している。水産試験場と漁業指導所は黒潮の流路について迅速に情報を流していただきたい。

(中平座長)

続いて、すくも湾漁業協同組合代表理事組合長の浦尻委員に意見を伺いたい。

(浦尻委員)

すくも湾漁協も新型コロナウイルス感染症の影響で非常に厳しい状況にある。加工場も持っているが、主な取引先である学校給食が止まって結構な打撃を受けた。地域に大型の加工場も多くできているが、どこも厳しい状態にあると思う。黒潮町の加工事業者からの話で、6市町村長にくれぐれもお伝えして欲しい内容として、人口が減少していくなかで加工する作業人員が確保できないため、外国人材の活用にチャレンジして欲しい。また、宿毛湾に新たにできる港には大型の貨物船が着くと我々は思っている。新港を更に発展させ、幡多郡内の農水産物の海外への輸出等に繋げていきたい。

(中平座長)

続いて、幡東森林組合代表理事組合長の堀委員に意見を伺いたい。

(堀委員)

林業分野の地域アクションプランが少ないように感じる。公共建築物などへの四万十産の木材の活用を促進して欲しい。

(中平座長)

続いて、高知県農業協同組合幡多地区統括常務である長尾委員の代理として、大方支所長の宮崎委員代理に意見を伺いたい。

(宮崎委員 (代理))

JA が合併して組織が大きくなった。農業に関して、幡多地域から全県に打って出られるようなものがあれば相談して欲しい。中村の JA グリーンセンターでも、中村だけでなく幡多全体の農産物を取り扱っているため、もし関心のある農家等がいればお声がけいただきたい。柑橘のことにに関して、黒潮町ではグリーンレモンの栽培に取り組んでいるが、地域アクションプランには入っていないのはなぜか。

※委員からの意見に対して一括して回答

(松村地域産業振興監)

中脇委員からの質問に関して、びっ栗まんじゅうは各種イベントで非常に好評と伺っている。しかしながら、これ以上の雇用や規模拡大は考えていないようであったため、現状はイベント開催などの側面支援を継続している。個人的には是非見直してやっていきたいが、宿題とさせていただきます。

(地域観光課 依光企画監)

小松委員から意見のあった幡多広域観光協議会の人員が足りないということについて、今年度から県版の地域おこし協力隊という制度を移住促進課と連携して進めており、10月から雇用できるように予算も確保している。雇用できれば1人増が見込まれる。

また、観光地域づくり塾については、観光消費の拡大等を目指し、地域に経済効果をもたらすような滞在型の観光プランや計画を立てていくという取り組みである。現在、幡多広域観光協議会がSDGsをテーマに観光プランづくりを進めており、現在は商品づくりがメインになっているが、今後幅広い観光プランづくりの方に移っていけるように県としても事業を進めていく。

(土佐清水漁業指導所 田井野所長)

問可委員からの意見に関して、メジカの原因の不足については、近年、特に2017年頃から足摺岬周辺において極端なメジカの不漁が続いている。水産試験場では、水揚げ調査やDNA解析、魚の年齢分析などを行い原因の究明を進めるとともに、メジカの漁場予測システムの開発を高知マリンイノベーションという取り組みのなかで進めている。今後も黒潮の流路の予測については、毎週、漁業者の方に遅延なくお伝えできるよう、水産試験場と連携して取り組んでいく。

(松村地域産業振興監)

堀岡委員からの四万十川の取り組みが少ないという意見に関して、スジアオノリに関しては、現在、護岸や砂州、水温などの関係で、収穫量が非常に少ないということ、販売体制面を検討しなければならないということから、今年は削除という形で様子を見てみることにしている。土木事務所や県と国との話し合いの経過も注視しながら支援していきたい。

鮎のブランド化に関しては、例えば新たな加工場を西土佐地域に作って、鮎のコンフィに加えて新たな品目ができないか検討を続けている。具体化に向けて四万十市とも話してみる。

東京の県アンテナショップでの四万十川のウナギやアユの取扱いについては、サンプル商材での取扱いになってしまうのではないかとも思うが、生きたままのアユを送って販売する取り組みは非常に好評であるため、早速地産外商公社に繋がせていただく。

浦尻委員からの質問に関して、外国人労働力の確保については水産部会の方でも大きな課題となっている。現在、県では外国人労働者の受入れに関する戦略を作るため部局を横断する形でアンケート調査を実施している。中部・東部・西部で取り組むべきというご要望も伺っているので、本庁にも意見を上げていきたい。

(幡多林業事務所 山崎所長)

長山委員から質問があった大月町の備長炭の取り組みに関しては、定期的に町、県と備長炭生産組合との検討会を開催し、課題の洗い出しや情報共有を行っている。4年後以降の原木の確保が課題となっており、木を切った後に植林するための生産マニュアルを作成して苗木の生産にも取り組んでおり、植樹祭として学生に植樹してもらうなどしている。県としては、役場を通じて作業道の整備補助などの支援を行っている。

(松村地域産業振興監)

堀委員からの林業分野のアクションプランが少ないという意見について、四万十ヒノキの利用促進に関しては高幡地区と幡多地区で取り組みを進めている。昨年度まで地域アクションプランとして取り組んできた四万十ヒノキを活用した住宅の着工数30戸は継続的に達成している。新たに幡多地区と高幡地区で四万十ヒノキの協議会をつくって取り組みを進めていることから、一旦卒業とした。新たな課題や取組が出てくれば、高幡地区とともに地域アクションプランに上げていきたい。

地元でも幡多産の木材は是非使っていきたいという声もあり、また、四万十市の産業振興計画にも上げているので、業界を挙げて地元産の木材を活用する体制を作っていきたい。

宮崎委員代理のレモン関係のご意見について、柑橘類に関してはJAの系統出荷を中心とした生産であるため、県全体の成長戦略に位置づける案件であると認識している。生産計画や販売計画など、町と一緒に支援していく。

立田委員から質問のあった新型コロナの影響を踏まえた指標の見直しについては、現計画では、5年後10年後も見据えて、意味のある目標値を掲げており、新型コロナの影響についても十分把握しながら目標達成に向けて新たな対策を打っていくため、今の段階での見直しはしないこととしている。

安田委員から話があったアドバイザー関係について、産業振興アドバイザー制度は全て県費でやっている。「こういう人に指導してもらいたい」といった要望があれば是非ご相談いただきたい。

沢良木委員から質問のあった担い手対策について、幡多地域は労働力不足であり、地域外への移住も多くなっている。人口減少対策等については、後述の「(3) 産業成長戦略について」のなかで、担当課から説明させていただく。

小松(昭)委員からの質問に関して、幡多全体の入込客数の増加に向けて、しまんと・あしずり号の利用者数の増加も踏まえているので基礎数字には市町村の取り組みも含まれているが、幡多広域観光協議会等とも話をし、内容の見直しについては検討させていただきたい。

西宮委員から話があった土佐清水市の観光の関係について、B評価としていたが、SATOUMI オープンへの期待で既存の施設の入館者が減少した影響も含まれている。今後、土佐清水市全体の入込客数を増やしていけるよう取り組んでいきたい。一方で、お昼を食べるところがないとの声も伺っている。昼食マップ等を作っていたが、ホームページから見られないなどの意見も聞く。土日の昼に清水サバを食べたかったなどの要望もあるため、一緒に観光客の満足度向上に向けて取り組んでいきたい。

程岡委員から話が合ったスーブプロスについて、4月早々には交付決定をしているが、機械が特注と言うこともあり、技術的に時間を要していると聞いている。今年度中には竣工できるよう速やかに進めていく。

(3) 産業成長戦略について

- 1) 観光振興の取り組みについて
- 2) 移住促進の取り組みについて

(中平座長)

それでは、各首長である委員からも意見を伺いたい。まず、三原村長である田野委員、次に、土佐清水市長である泥谷委員、宿毛市長である中平(富)委員から意見を伺い、四万十市長である私からの意見を述べた後に、大月町長である岡田委員、最後に黒潮町副町長の松田委員から意見を伺う。

(田野委員)

人手不足の問題に関して、土佐清水市ではベトナム人の移住者などの受入を進めている。是非、幡多地域に日本語学校をつくるということを考えて欲しい。幡多で日本語を勉強し、住んでいただき、一次産業等の人手不足解消に繋げていっていただきたい。

(泥谷委員)

観光については、県も9月補正で新型コロナ対策として、おもてなし課が観光施設等改修事業、地域観光課では屋外の緊急整備事業についてご提案いただいていると思う。土佐清水市も沢山の要望をさせていただいているため是非よろしくお願ひしたい。臨時交付金も活用して、感染対策と経済対策に力を入れている。SATOUMI の関係は前回のこの会議で県に宣伝協力をお願いしたところであるが、集中して対策していただき大変効果があったと思う。SATOUMI はオープン1ヶ月で入館者数5万人を突破したが、(株)高知県観光開発公社の集計によると入館者の内訳は高知県60%、愛媛県21%、四国全体で86%であったというデータもあり、まだまだ伸びしろがあると考えている。新型コロナ事業を活用して、土佐清水市独自のCMも作成している。ジョン万満喫クーポンも9月議会で追加や団体インセンティブなどの予算も組んでいる。経済対策は一生懸命やっていく。

また、三原村村長である田野委員から話のあった人材不足について、各産業が慢性的な人材不足となっているため、幡多地域全体として取り組んでいきたい。

これまでは、竜串エリアの再開発を進めてきたが、今後は足摺岬エリアの再開発ということで、環境省による展望台のリニューアルや唐人駄馬に牧場も出来る予定であり、引き続きご支援を賜りたい。

(中平(富)委員)

3月31日に宿毛市内で新型コロナ感染者が発生してから、様々な補助制度を活用しながら新しい生活様式への対応に向けて取り組みを進めてきた。アフターコロナを見据えた社会構造の変化に対応していく必要があるが、県として今後世の中がどうなっていくかお考えがあればお示しいただきたい。高知と言えば皿鉢が並んだ宴会であるが、今後はこれも変化していくものと思う。

(中平座長)

四万十市の現況を発言させてもらおうと、7月14日に大阪から来られた方が新型コロナに感染が確認されており、それだけで、飲食店や夜の宴会がかなりキャンセルとなった。飲食店は徐々に回復しているとは言え、良くて7割、スナックなどは厳しい状況が続いている。新型コロナは長期戦になると思われるが、そのなかでGoToキャンペーンなどの効果でこれから多くの人が来ると思う。幡多はしばらく新型コロナ感染者は出ていないが、経済対策のことも考え、1日も早く元気になっていく必要がある。幡多は山、川、海、文化、食の全てがある。力を合わせてやっていきたい。

(岡田委員)

大月町は町議選があるので9月議会は幡多郡で一番早く開催した。その中で新型コロナに対する経済対策として全町民への1万円の商品券配布を決めて作業を進めている。竜串の開発による波及効果の恩恵を受けており、柏島中心に人が流れてきたことで道の駅の売上も上がっている。

人手不足は大月町でも課題であり、今年は漁業でインドネシアから10人受け入れており、新型コロナウイルス感染症の影響がなければさらに10人の受入を予定していたが、白紙となった。雇用の確保ができなければ産業の発展はないことから、今後も積極的に取り組んでいく。

(松田委員)

黒潮町でも新型コロナの影響で多くのイベントが中止や延期となった。そんななかで、延期になっていたTシャツアート展を10月末～11月頭に開催することが決定した。1日3,000人、5日間で1万人以上のイベントを全国発信するというので、町全体で予防対策を図っている。経済を回していくためには人を呼び込むイベントも必要ではないかと思う。

(中平座長)

その他の委員で、意見がある方がいればお願いしたい。

(小松(孝)委員)

移住促進の取り組みについて、移住者について20代～40代が8割以上となっているが、その理由は何か。黒潮町では、移住したい人は登録してもらってから面談しているが、その方々に聞くと、海、山、自然があるとの回答だった。今、新型コロナのおかげで地方が見直されているように思う。こういった子育て世代に対して、自然を生かした遊び場の整備など、地域アクションプランなどの取り組みと連携して取り組んで欲しい。移住によって人口が増えれば、地産地消・外商問わずに地域の産業が維持できるようになると思うので、是非ともよろしくお願ひしたい。

(移住促進課 保積チーフ)

具体的なアンケート調査は追々やっていくが、地方出身の方が東京に転出し、2～3年働いて現実を知って地方に帰りたいというパターンや、子育てのために都会の生活で良いのかとUターンするケースが多い。アフターコロナ、ウィズコロナを見据えた時、一例として東京の企業が本社機能の一部を淡路島に移したように、テレワークが認められ推進されている。都会を中心に働くためにわざわざ出勤しなくてもよいという空気が強くなっている。ワーケーションといった長期休暇の間、地方で家族と楽しみながらテレワークで仕事をするという選択もできるようになっている。9月補正以降、それらの取り組みを進め、地方への人の流れを作っていく。

(以上)